

付着生物ラーバ情報

ムラサキイガイの付着により分散作業の効率が低下する見込み

1 これまでのラーバ出現状況

付着生物ラーバ調査は図1の地点で4~9月の間月2回実施しました。ラーバ出現数は表1、出現数の推移は図2~4のとおりです。

(1) ユウレイボヤラーバ (通称: ハナ)

久栗坂で5月中旬に62.2個体/m³、川内で7月上旬に10.2個体/m³とピークが見られ、平均値を大きく上回りましたが、8月以降はほとんど見られていません(図2)。

(2) サンカクフジツボラーバ (通称: アカガキ)

久栗坂で8月中旬に7.8個体/m³とピークが見られましたが平均値を下回っています。川内では最大でも5月中旬に2.3個体/m³と平均値より低い水準で推移しています。9月1日に久栗坂で4.4個体/m³、川内で1.6個体/m³見られましたが、直近の9月18日には両地点とも出現が見られませんでした(表1、図3)。

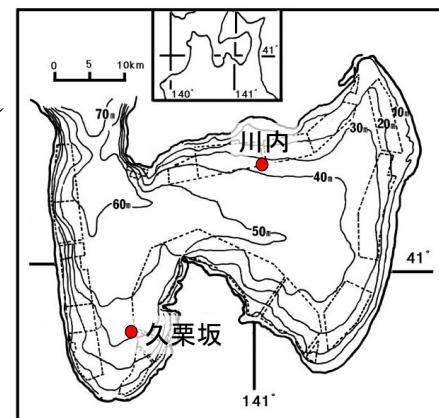


図1 付着生物ラーバの調査地点

調査地点	調査月日	表1 直近のラーバ出現数			単位: 個体/m ³
		ユウレイボヤ	サンカクフジツボ	ムラサキイガイ	
久栗坂沖	R7.9.1	0.0	4.4	3.9	
	R7.9.18	0.0	0.0	1.1	
川内沖	R7.9.1	0.0	1.6	10.2	
	R7.9.18	0.0	0.0	3.1	

※実験漁場内

(3) ムラサキイガイラーバ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

久栗坂では4月中旬に398.9個体/m³、6月上旬に510個体/m³と、川内では4月中旬に926.6個体/m³、6月中旬に286.7個体/m³とピークが見られ、両地点とも平均値を上回りました。今月は9月1日に久栗坂で3.9個体/m³、川内で10.2個体/m³、9月18日に久栗坂で1.1個体/m³、川内で3.1個体/m³見られました。(表1、図4)

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

9月24日現在、陸奥湾内の中層の水温は24°C台となっています。

ユウレイボヤは水温20°C以下で本格的に産卵し、発生したラーバは3日程度で付着するため、11月以降にラーバの出現数と付着数が増加すると思われます。

(2) サンカクフジツボ

付着直前のラーバは見られないため、付着は終了と考えられます。また、7、8月にラーバの出現が少なかったことから、今秋の稚貝分散作業や来春の耳吊り作業へのサンカクフジツボによる影響は少ないと思われます。

(3) ムラサキイガイ

4~6月にラーバの出現が多かったことから、今秋の稚貝分散作業の効率が低下すると思われます。なお、秋から冬にかけてラーバ出現数が増加する可能性がありますが、分散や入替作業後の養殖籠への秋から冬生まれのラーバの付着は少ないことが分かっています。



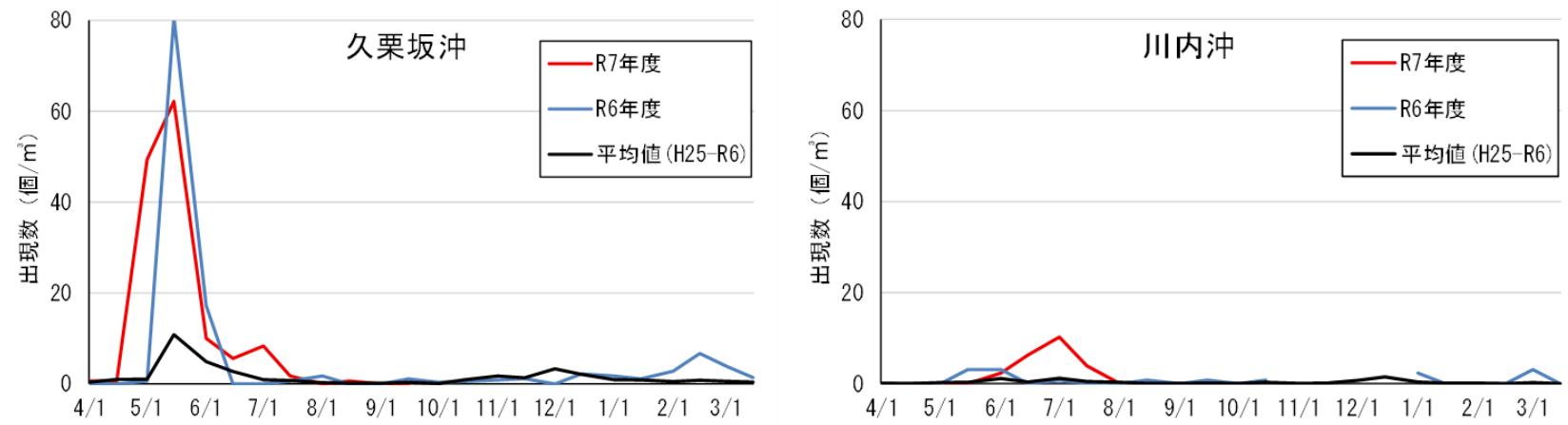


図2 ユウレイボヤラーバの出現数の推移
・H25から現在までの最大値：久栗坂 80.6個体/m³ (R6)、川内 10.2個体/m³ (R7)

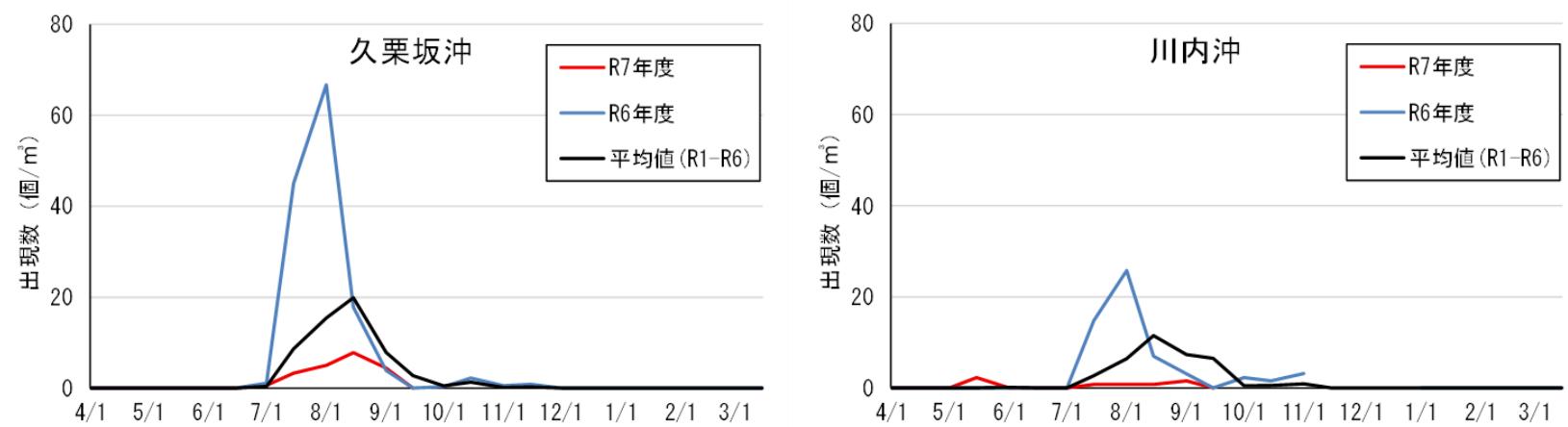


図3 サンカクフジツボラーバの出現数の推移
・R1から現在までの最大値：久栗坂 66.7個体/m³ (R6)、川内 45.3個体/m³ (R2)

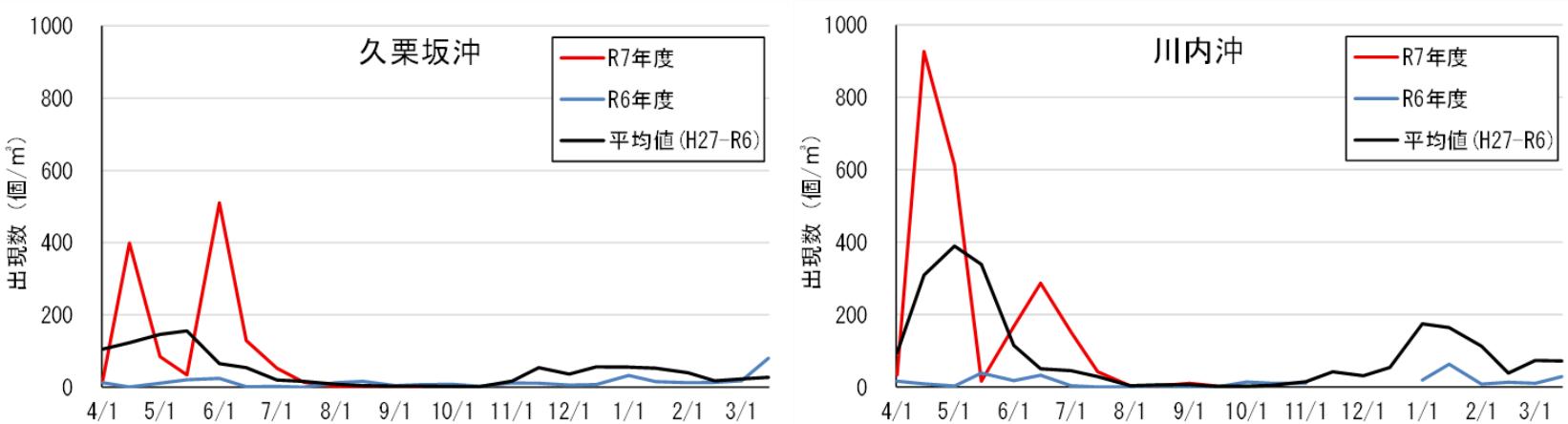


図4 ムラサキイガイラーバの出現数の推移
・H27から現在までの最大値：久栗坂 510個体/m³ (R6)、川内 1,650個体/m³ (R3)